

会 議 録

- 1 会議の名称 令和6年度 第2回まち・ひと・しごと創生推進会議
- 2 開催日時 令和6年10月29日（火）
午後4時30分から5時30分まで
- 3 開催場所 熊取町役場北館3階大会議室
- 4 議 題 議題 （仮称）第3期熊取町総合戦略（素案）について
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者数 0人

7 審議会等の概要

○議題 （仮称）第3期熊取町総合戦略（素案）について

（1）事務局説明

事務局から本会議の趣旨及び資料に関して説明した。

（2）委員・事務局間の意見交換

事務局からの説明後、委員・事務局間で意見交換と質疑応答を行った。主な内容については次のとおり。

（委 員）

町に転入したい、子育てをしたいと考えている若者が、地域のつながり（特に自治会）のことをどう考えているのか。安心して暮らすとなると、地域で隣の人顔がわかるなど、相談できる雰囲気が必要。若者が人と人のつながりをどう考えているかわかるような資料はあるか。

（事務局）

住民アンケートによると、転入理由について、「地域に愛着がある」を選んでいる20代が多かった。だんじりなどの幼いころの活動を通じて、醸成されてきた地域への愛着が、ある程度の年齢を迎え転入先を考えた際に、転入先を決定する要因となっていると考えられる。

(委員)

たとえば、祭りは好きだが自治会には入りたくない人もいるのでは。近所付き合いが希薄になってきている。自治会に入りたくない理由として、入区費が高いといった声も聞く。区によってばらつきがある区費を統一するのはどうか。コミュニティに入ると楽しいという方向に持って行きたい。地域に愛着があることはわかるが、自治会へ加入したいということに直結することではない。

(事務局)

まちづくりを進めていくうえでの基盤が自治会であることは間違いない。

(委員)

一度本町を転出した人が、再度転入するという特徴があることは間違いないが、その傾向は周辺自治体より高いのか。

(事務局)

相対的に高いという根拠はなかなかない。

(委員)

地域へ愛着をもつ要素がだんじり祭ならば、祭をどう仕込むかということが、地域活性化の戦略として大きい要素となるため、分析が必要。

(事務局)

可能な限りデータを集める。

(委員)

自治会の区費を町が税金として徴収し、各区に還元してもらう仕組みは可能か。

(事務局)

直接的には難しい。自治会活動費として補助金を支出しており、防犯灯の管理に係る電気代も100%補助をしている。間接的には集めた税金から、補助金の形態として還元している。自治会活動のPRも重要であり、独自に自治会LINEやHPをつくっている自治会も増えてきている。高齢化が進む中で、デジタルをどう活用できるか考える必要がある。

(委員)

デジタル化は基本的に何のためにやるのか。効率化か。

(事務局)

大きくは、効率化と住民サービスの向上。

(事務局)

自治会の加入率を下げている一因として、役員の業務負担がある。自治会のイベントなどの情報発信は、現在ポスティング（アナログ）で行われるが、こういった情報発信については、デジタル化の恩恵を受けられるのではないか。一方で、人と人との関わりの機会（アナログ）を維持することも大切。アナログとデジタルを良いバランスで使い分けられたら。

(委員)

人間関係はアナログ。デジタル化と同時にアナログを高度化することが重要。そのためにデジタルをどう使うか。

(事務局)

デジタル化により効率化することで、人と人とのつながりを強くできると思う。たとえば、デジタル化により職員の手間を削減することで生まれた人員を、より丁寧な窓口対応に振り分けていくなど。アナログの重要性も重視しながら施策を考える。

(委員)

定住促進とあるが、住み続けること自体が良いというわけではないのではないかと。「仕方が無いから住んでいる」「移る力が無いから住んでいる」となると、定住促進といっても意味が違ってくる。

(事務局)

この町に住み続けるために住民の生活の質をどう高めていくかといった視点は、具体的な施策を考えるうえで重要。人口減少を前提としたときに、質的な向上を図ることは今回の大きなテーマ。

(事務局)

「地域の活力」の源泉は何なのか。人口規模なのか、経済面なのか、子どもが多くて地域がにぎやかであることなのか、「地域の活力」とは何か、委員の意見を伺いたい。

(委員)

子どもだと考える。子育て世代が楽しく暮らせるまちづくり（公園の整備、ショッピングセンターの誘致など）を進めた方が、子育て世代が集まり、子どもが増えるのでは。

(委員)

活力とは、生き生きし、目が輝いている状態。にぎわいがあり、経済的に発展することが良いというものではなく、人の幸せとは何かを考えることや、静けさを楽しむことも重要。

(委員)

地域の活力は子どもだと思う。子どもが生き生きするためには、体験することが重要。家庭では体験できないことを体験させてあげられる取組を進めてもいいかもしれない。

(事務局)

次期総合戦略の具体的な施策を検討するうえで考慮したい。

(委員)

熊取町は自然に触れ合う体験ができる環境が残っている。人材育成において子どもの時にそういった体験をしていることが重要。

(委員)

お小遣い体験ゲームという切り口で、小学生に対し、金融経済教育を行った。民間企業もそういったかたちで地域貢献できる。

(委員)

子どもの体験イベントは、親同士がつながるきっかけにもある。

(委員)

休耕地を活用して子どもが稲作体験を行い、できあがったお米を地域の人に販売し、利益で次の肥料や道具を買うという取組を行っている事例がある。この取組は子どもと地域が関わる機会にもなっている。町内にも休耕地があり、農家もいるので、このような取組もできるのでは。

(事務局)

若い農家の団体が、子どもに農業体験をしてもらう取組を始めている。経済的な豊かさのみを追求するのではなく、内的な豊かさをめざし、具体的な施策を検討していきたい。

(委員)

文化については新しいホールをつくったが、スポーツの方はどうか。

(事務局)

部活動の地域移行など、地域の方と連携し子どもたちが体験できる機会を提供する取組を行っている。

(委員)

「公民連携・広域連携の推進」の視点も重要。たとえば泉佐野市の犬鳴温泉と連携するなど、近隣市町の施設を相互に利用できるように、広域的に考えていくべき。

活力あるまちづくりとして、「地場産業振興」とあるが、地場産業を活性化させるには、企業努力も重要だが限界がある。たとえば入札制度。大手企業が入札に参加すると、地元企業が受注できない場合がある。地元企業の育成、成長を支援するために、何か改革できたら。

(事務局)

今後のスケジュールについて、具体的な施策について庁内調整を年末にかけて行う。次回会議は1月に開催予定。議会への報告及びパブリックコメントを経て、3月に策定予定。

8 審議会の情報	名 称	まち・ひと・しごと創生推進会議
	根拠法令等	まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱
	設 置 期 間	平成27年4月30日～
	所 掌 事 項	本町における地方創生の推進にあたり、熊取町 総合戦略の策定等について意見を述べること。
	委 員 数	8人
9 担 当 課	総合政策部企画財政経営課（政策企画グループ）	